

## 札幌市立月寒中学校の取組 【読書に関する教育課程】

### 1 研究のねらい

本校は、今年度から学校図書館司書が配置された。そこで、これまで学校図書館担当教諭が行うことが難しかった、より一層の図書館の充実が実現できる環境となった。また、学校図書館司書と様々な授業が連携しながら、どのような活動が可能であるのかを模索し、新たな可能性を見出す年としたいと考えた。

まずは、「学校図書館のより一層の活用」「生徒の読書の幅を広げるきっかけづくり」を目指し、学校図書館司書と連携しながら、国語の授業を進めていくこととした。

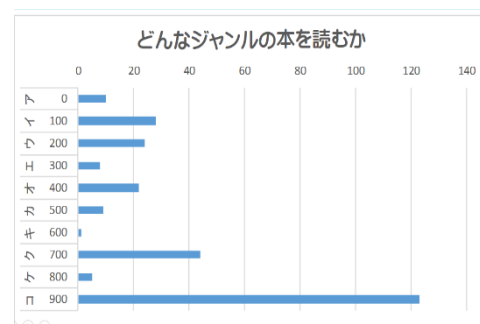
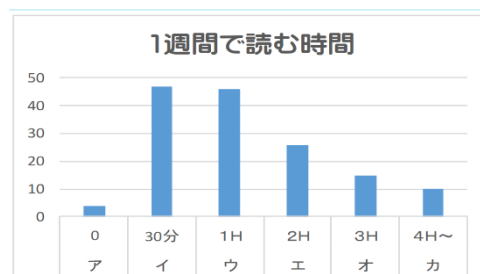
### 2 取組内容

#### (1) 事前の活動

##### ①実態調査

まずはじめに、2学年の生徒を対象に、「読書に関するアンケート」という形で実態調査を実施した。本校では、全校の取組として、朝の時間に十分間読書を行っているが、朝読書の時間を含めても1週間で本を読む時間は30分～1時間という生徒が多く、朝読書以外の時間も長時間読書している生徒は、ごく一部であることが明確になった。また、本を選ぶきっかけや本との出会いの場に関する項目では、書店が圧倒的に多く、身近にある図書館の利用が想像以上に少ないこともわかった。

さらに、普段よく読む本のジャンルに関する項目では、圧倒的に900番台が多く、自分の好きなジャンルの本を中心に本を選んでいることもわかってきた。



##### ②課題設定

実態調査の結果を受けて、生徒たちは、「好きなジャンルを読み広げていくことも良いことだが、自分が知らないジャンルにも素敵な本があるのではないか。」「せっかく身近にある図書館をもっと活用できないか。」と考えた。そこで、この二つの課題を解消する活動を行うことになった。活動名は「宝探し～未知のジャンルと出会う～」。実際に行った授業の流れは、以下の通りである。

- ・分類番号の0～9が書かれたクジを引く。
- ・自分の引いたクジの番号の棚に行き、紹介したい本を1冊選ぶ。
- ・選んだ本を読み、その本の紹介カードを書く。
- ・分類番号ごとにまとめて掲示された紹介カードを読みあい、さらに未知のジャンルに視野を広げていく。

## (2) 実践

### ①選書

各教室でクジを引き、自分が探す分類番号を把握した上で、学校図書館へ向かった。読んだことのない本の棚は、新たな発見があり、まさに『宝探し』のように探している生徒がたくさん見られた。一年時に、オリエンテーションで訪れて以来、学校図書館を利用したことがない生徒も、図書館を身近に感じたり、魅力に気づいたりした様子であった。

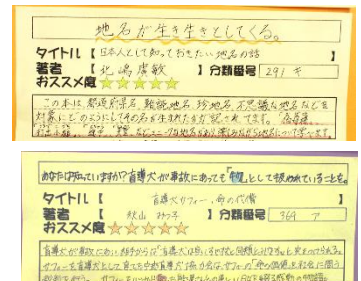
気になる本を手にとり、本棚の前でパラパラとめくる生徒。椅子に座り、じっくりと読みながら選ぶ生徒。「この本、おもしろいよ。」と、見せ合う生徒。ふと手に取った本を繰るうちに、本の世界に引き込まれて集中して読み進める生徒。

今後、図書館に足を運びやすくするきっかけとするためにも、学校図書館司書と連携し、選書に困っている生徒へのアドバイスをしたり、実際に貸出処理の手続きも行った。



### ②発信

それぞれが、主体的に選んだ本を読み進めていく時間をとった。普段、読んだことのないジャンルの本は、読み進めるのに苦労した生徒もいたが、それぞれが選んだ本の魅力をつかみ取り、紹介カードを作成した。



### ③受信

学年全員が完成させた紹介カードは、学校図書館前の掲示板にずらりと並べられた。カードを見る側にも、ジャンルを意識してもらうため、分類番号ごとに色分けされた台紙に貼り付けた。互いのカードを読みあう中で、次に読んでみたい本が見つかった生徒の姿が見られた。



## 3 成果と課題

### (1) 成果

この活動後、生徒からの感想には、「普段図書館にはほとんど行っていなかったけど、入ってみたら、とても興味がわく本がたくさんあった。」「今回クジであたったジャンルの他にも、読んでみたい自分の未知のジャンルがあったので、また本を探しに行きたいと思う。」「ほかの人のカードを見て、次に読んでみたい本が見つかった！」という言葉があった。

実際、この活動を行ってから、通常の図書館の開館時の利用者数、貸出冊数が急増した。今回の取組は、生徒が図書館に気軽に足を運び、新しい本と出会う一つのきっかけになったと言える。

### (2) 課題

国語科は、学校図書館との連携が比較的取りやすい教科である。学校全体で図書館を有効に活用し、生徒の読書生活に資するためには、指導計画の共有や教職員間の意識の向上が求められる。今回の取組を一過性のものにせず、教職員にとっても生徒にとっても、より利用しやすい学校図書館として、継続的に環境整備に努めていきたい。